# ～ 寒の入り 冬芽訪ねて 初歩き ～

相生山の四季を歩く会 #159
2023.1.8

1 冬の雑木林、元気に歩くことを楽しみましょう。

2 あと1ヵ月もしないうちに、春がやって来ます。
樹木の変化、冬芽に注目 ！

3 野鳥に出会えるチャンスです。耳と目を澄ませて。

4 「里山」～ひと昔前の農村風景を思い起こし、
今の課題を考えてみましょう。

5 相生山は菅田（すげた）の山でもありました。
旧街道沿いの菅田神社で「市の保存樹」と対面。
「初詣」される方は ご自由に。

相生山の四季を歩く会の年賀状（部分）

## 2023年最初のコース

予定タイムテーブル

1 相生口 発 9:40
2 シンボルコナラ 9:55
3 山根口 10:00
4 北尾根ベンチ 10:10
＊①分離
5 双子池口 10:25
6 菅田神社 10:50
7 菅田口 11:00
＊②合流＆分離
8 周回道路/伊吹展望 11:25
9 コナラの広場 11:45
10 シンボルコナラ
＊再合流 解散 12:00

相生山緑地全体写真

タカノツメ

良く目立つ
3種の冬芽を覚えよう
（詳しくは2面）

ヤマコウバシ

タブノキ

*自然のこと　人びとの思い*
*最新情報と予習復習に*

## 出会える（かもしれない）森の生きものたち

| 樹木 | 標準和名 | 漢字表記 | 科 | ひとことポイント |
|---|---|---|---|---|
| 1 | サカキ | 榊 | ｻｶｷ | 神さまと人間界の境木、暖地性、冬芽先端/鉤状 |
| 2 | シイ | 椎 | ﾌﾞﾅ | （たぶん）スダジイ、現在？本 |
| 3 | タカノツメ | 鷹の爪 | ｳｺｷﾞ | 命名の由来は冬芽にあり、落ち葉の匂い微かに |
| 4 | マンリョウ | 万両 | ｻｸﾗﾂｳ | 果実は下向き |
| 5 | ネジキ | 捻木 | ﾂﾂｼﾞ | 「塗り箸」まで あと少し |
| 6 | ヤマコウバシ | 山香ばし | ｸｽﾉｷ | 落ちない葉が受験生のお守りに、雌株のみ |
| 7 | タブノキ | 椨 | | 暖帯の極相林の構成種 |
| 8 | コナラ | 小楢 | ﾌﾞﾅ ⁂菅田神社「保存樹」 | 雑木林（二次林）の代表種、頂生側芽 |
| 9 | アベマキ | 椿 | | クヌギ（橡/國木）と比較してみよう |
| 10 | クスノキ | 樟/楠 | ｸｽﾉｷ ＊菅田神社 | 樟脳→ご神木？ 名古屋市の木 |
| 11 | クロガネモチ | 黒鉄黐 | ﾓﾁﾉｷ ＊菅田神社 | 雌雄異株、葉柄・1年枝の色でﾓﾁﾉｷと区別、金持ち願望 |
| 12 | ウスノキ | 臼の木 | ﾂﾂｼﾞ | 当会では超人気❣冬芽と若い枝 |
| 13 | センリョウ | 千両 | ｾﾝﾘｮｳ | 果実は上向き |
| 14 | ソヨゴ | 冬青 | ﾓﾁﾉｷ | 雌雄異株、三河～東濃ではお正月飾り「福来木」 |

| 野鳥 | 標準和名 | 漢字表記 | 目 / 科 | ひとことポイント |
|---|---|---|---|---|
| 1 | カルガモ | 軽鴨 | ｶﾓ/ｶﾓ | 双子池に常駐一家 |
| 2 | キンクロハジロ | 金黒羽白 | ｶﾓ/ｶﾓ ＊冬鳥 | 冬鳥、後頭部に冠羽、♀は茶系 |
| 3 | ミサゴ | 鶚 | ﾀｶ/ﾐｻｺﾞ | 天白川の魚が好物、下面黒っぽく見える |
| 4 | オオタカ | 大鷹 | ﾀｶ/ﾀｶ | 下面が真っ白、全長♀56cm,♂50cm |
| 5 | コゲラ | 小啄木鳥 | ｷﾂﾂｷ/ｷﾂﾂｷ | 耳を澄ませばドラミング、声はギィー |
| 6 | モズ | 鵙・百舌鳥 | ｽｽﾞﾒ/ﾓｽﾞ | 高鳴き、昆虫食、嘴鉤型 |
| 7 | シジュウカラ | 四十雀 | ｽｽﾞﾒ/ｼｼﾞｭｳｶﾗ | 藍と白がキレイ、♀♂でネクタイに差 |
| 8 | メジロ | 目白 | ｽｽﾞﾒ/ﾒｼﾞﾛ | 群れて忙し |
| 9 | シロハラ | 白腹 | ｽｽﾞﾒ/ﾋﾀｷ ＊冬鳥 | 愛嬌ある警戒声で覚えよう |
| 10 | ルリビタキ | 瑠璃鶲 | | 幸せの青い鳥は成鳥の♂ |
| 11 | ジョウビタキ | 尉鶲 | | 紋付羽織った頭の白い「お尉さん」、♀は色薄 |

## 自然との付き合い方 ＆「里山」を考える

コナラ・アベマキ・ヤマザクラを主とした二次林が林齢８０年を越えて、老木化が進んできました。その林床は暗くなり、十分な光を必要とする、これらの樹種の幼木（次世代）は、全く育つことができません。育つのは、カシ類やヒサカキ・カクレミノなどの常緑広葉樹がほとんどです。所によっては、シイの幼木も、多く見られます。

こうした姿を、「森が荒れている」と表現することがありますが、それは、全く間違いです。単純に、人が手を加えなくなったため、自然の仕組みの中で最も重要な「植生遷移」が進んだだけなのです。植生遷移とは、８００年程かけて、裸地から、その場所特有の原生林の成立まで変化していく自然現象です。ですから、何も気にすることはありません。

ただ、この地域の原生林は、ほとんどシイ－カシ林で一年中薄暗く、身近な森としては、快適といえない面もあります。ですから、快適性を求めて、森の手入れをすることが全て間違いということはありません。私たち人間の都合で、あくまで。

それにより、維持できる動植物もたくさんいます。でも、人間が手入れしなければ絶滅する種類が多いというのは間違いです。何といっても、全ての動植物が、私達人類より歴史が古いのですから。

こうした、自然と人間の関係をじっくり考えてみることは、とっても大切なことです。まずは、自然の素晴らしさを心から楽しみ、次に、どのようにして目の前の自然が成り立っているかを考え、最後に、私たちがこれからどのように自然とつきあえば良いかを、じっくり考えてみることが大切だと思います。

北岡明彦「森のひとり言」#114/ラブリーアースHP より抜粋

小倉百人一首の時代

矢作川流域森林物語より

わが国で広く行われてきた農業では、里山からカリ肥料を採るとともに、近くの町から人糞尿を集めて窒素肥料とすることによって、農地の肥沃度を維持しながら、固定した土地で連作稲作や蔬菜栽培を続けてきた。その結果できた農業による犠牲林が『里山』だったのだ。

（四手井綱英「グリーン・パワー」/2004.8）

次回は立春12日

テーマは冬芽

連 絡 先（古川）
tell/fax：052-821-6463
ｹｲﾀｲ ：080-5124-6463
email :viva_forest@yahoo.co.jp
ホームページ
ラブリーアース→検索